

肘折通信 第六號

「歴史研究会の明治燈」のこと

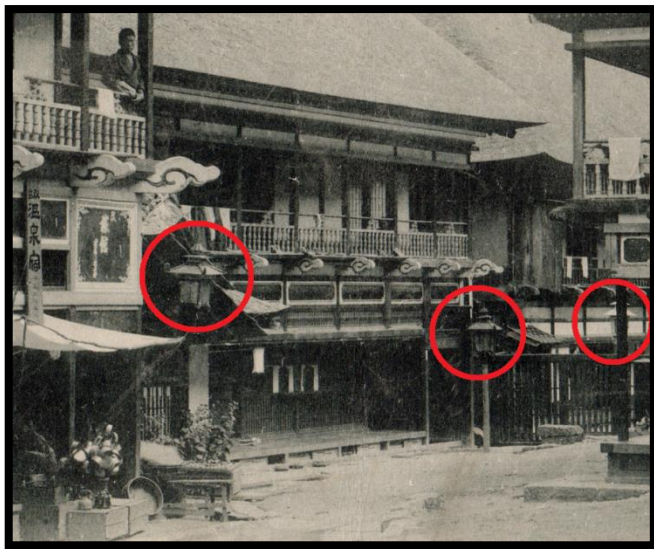
明治時代の肘折温泉にあった街路灯を、発見された実物と写真を
を基に復元し、温泉街に設置している肘折歴史研究会の「明治燈」

茅葺屋根の旅館が立ち並んだ
明治の肘折温泉において、
その姿はどこか洋風的で、
近代のロマンを感じさせます。



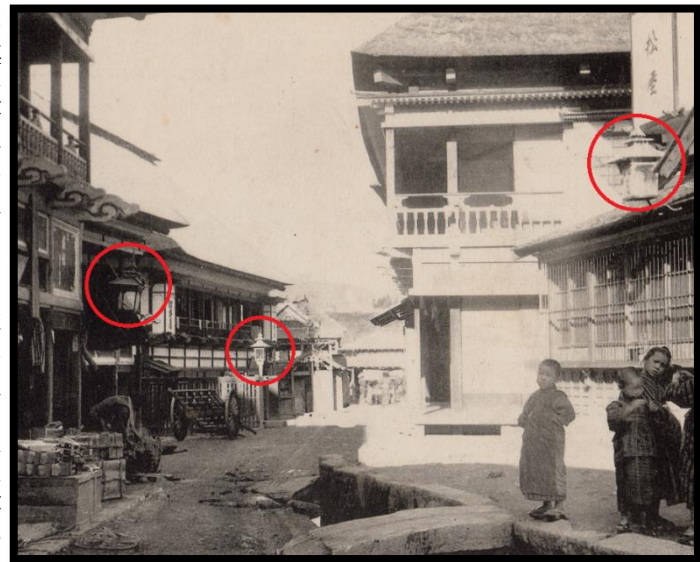
←上の湯通り。(左・上の湯)

この明治燈、実は単なる街路灯ではないことが判ってきました。



←藤屋前・若松屋前・仲通。

→藤屋前(左同)・仲通(左同)・松屋前。



この短い区間内で4基もの明治燈が確認でき、

単なる街路灯としては余りに過密です。

内3基は意図して旅館の玄関先に設置されているようです。

1枚目の続き→

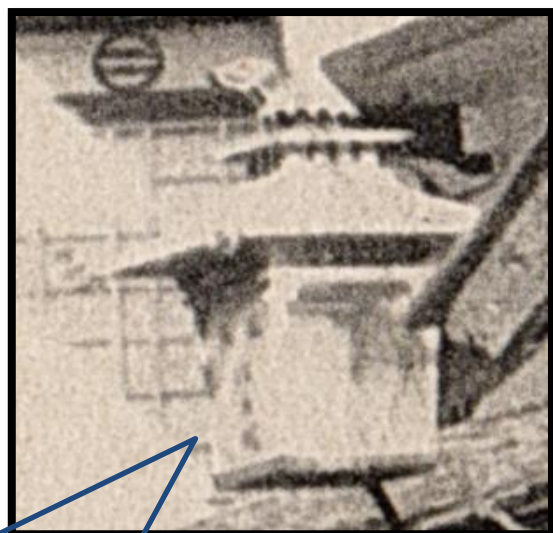
この明治燈は、なぜ旅館前に設置されているのか？

その重要な**ヒント**となるのが、
松屋前にある1基です。

拡大してみましょ

正面側のガラス部分に

字が書かれた紙が貼られているようです。



何が書いているかは見えませんが、
書いてあるとしたら旅館名が自然でしょう。

実は明治20年に ^{やど やとりしまりきそく}「宿屋取締規則」という県令が発令され

ており、第10条に ^{ひょうとう}「標燈」という文言があります。

宿屋が掲げる看板のサイズや文言を規定し、
さらに～旅籠屋木賃宿は夜中に標燈を点すべし～

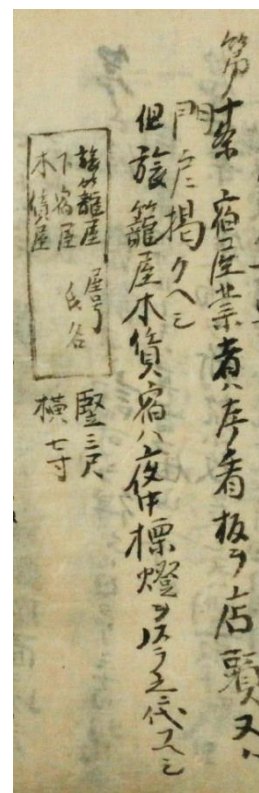
という条文で、

逆に、写真内に他に標燈となるものが無いことから、

明治燈とは…

街路灯および旅館の標燈であった！

と考えられます。



肘折歴史研究会